

6月運営委員会山行 北岳 大樺沢 左俣

1992 シスパン 最後の大滑降 1992.6.13 ~ 6.14

△ 橋本 享, 伊藤碩志, 岩 純, 梅原秀一, 蔵田道子, 武部 慎

シスパン 最後の大滑降として ◎ おすすめの 6月運営委員会山行は、参加予定者が予想外に少なく、企画担当としては拍子抜けの感があったが、3名でお茶の水を出発する。土曜日の午後とあって中央高速下りは上野原IC付近先頭で15km渋滞との交通情報に、明るいうちに広河原に着くことができるかと心配したが、新宿初台ICから 1時間で甲府昭和ICに到着。渋滞は解消していた。広河原キャンプ指定地で岩氏と合流し星空の下で久々にゆったりと歓談する。夜更けに武部氏、夜明けに伊藤氏が到着し、△は6名となる。起床が早かったのに一人ゆったりと朝食に時間をかけたせいか、6:30出発予定が 40分も遅れる。出合からみる大樺沢左俣は白くきれいで稜線まで雪が付いている。滑降が楽しめそうであるが標高差1,350mは高いか低いか。昨夜の星空はどこかへ曇り空のもと樹林帯の77°ローチに汗が目にしみる。1,950m辺りで例年通り雪を見るが雪渓が薄い、暖冬で厳冬期の積雪が少なかったのだろう、一旦雪渓が切れるが2,100mで雪渓末端に着く。スキ-を引いて雪渓を登るが、すぐそこに見える二俣、その先の上の二俣はバットレスの余りの大きさのため近く見えるが、標高差で400mもある。ひたすら登り続け、上の二俣でアイゼンを着け旧八本歯のコルに通じる右俣にルートを取る。斜度が増したのか、雪面が目の前で自分のステップが視野に入らない位の急登である。コル直下の這い松帶に突き上げ尾根には直接は出ることが出来ないので登行を打ち切る。余りの急傾斜と堅雪のためスキ-装着に手間取る。上の二俣まで標高差400mの急斜面を華麗とは行かないがともかく滑降し、ここから下部が本日のハイライト、斜度 雪質とも言うことなしの好条件である。二俣の大きなクリバスを迂回したら雪渓末端まで一滑り、1992シスパン 最後の大滑降を無事終了した。

(橋本 享)



1992.6.14 曇り

17:10(広河原)-8:45/9:10(2,100m,雪渓末端)-9:30(2,200m,二俣:左俣↑)-10:40/1
1:00(2,450m,上の二俣:右俣↑)-11:50/12:25(2,850m,旧八本歯のコル直下)-12:50
/13:05(雪渓末端)-14:05(広河原)
15:40(広河原駐車場)-16:30/17:00(白根村在家塚:サクランボ)-17:30(甲府昭和IC)-
17:45(一宮御坂IC)-18:30(河口湖)-19:00(禾生:秋山村↑) - 20:15(上野原IC) -
21:00(お茶の水) - 22:00(帰着)